■地域名　　　　　　　　小谷村　島・塩坂集落

■特徴的な被害対策　　集落の協同圃場による護りやすい農地づくり

1　地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考
１０	１０	ニホンザル、イノシシ、カモシカ他	夏野菜（カボチャ、トウモロコシ等）	

2　実施した被害対策の内容

区　分		実施に当たって工夫等したポイント
これまでの経過		・　十数年前から、サルによる度重なる被害を受け、“作っても、作っても”夏野菜を中心に食べられることから耕作意欲が低下し、放棄農地が増加していた。 ・　そんな中で、効果的に被害を防ぐため、集落として協働圃場を整備し、集中的に被害対策に取り組むことが住民の一部から提案された。 ・　小谷村はこの集落と同様の条件下で耕作意欲を無くし、耕作を放棄する集落が増えていることから、モデルの一つとして、『協働圃場を造成し遊休荒廃地を再生させる』『その圃場に集中的に被害対策を講じる』ことを試みることとした。
被害対策	生息環境対策	緩衝帯整備：後背森林の間伐、枝打ちを中心に農地際の藪払いも実施。（H21） 小谷村里山整備推進協議会が団地化し、森林づくり県民税を活用し、協議会の負担により実施（個人負担無し）。
	防除対策	協同圃場造成：集落脇の荒廃農地を村直営により造成。（H20） 役場の重機で開墾、整地。住民も協力し、土地の所有界に関わらずに実施。 防護柵設置☆：村、住人、野生鳥獣被害対策チームにより、協同で設置。（H21） 構造は、次の条件で獣害対策の専門家と相談し、現地で検討しながら決定。 ・　サル、イノシシ、ハクビシン等を複合的に防除できること ・　豪雪地帯のため冬季は簡単に撤去でき、翌春は簡単に設置できること ニホンザル行動調査と追払い： 2 頭に電波発信機を装着し、村でサル専門巡視員 9 名を雇用し、毎日巡視活動を行い、出没状況調査と追い払いを実施。
効果	被害状況	被害発生無し
	その他特記事項	・　協働圃場造成により、耕作放棄地が再生した ・　協働作業することにより、集落の結束が高まり、耕作意欲も高まった。 ・　サルの行動形態が把握でき、効果的な捕獲ができるようになった。 ・　緩衝帯整備の効果により、クマ出没が減少した。また、景観もよくなり、明るい集落になった。
農家の方からのコメント		・　被害が無くなり耕作意欲がわいた。 ・　道の駅が近いので、出荷して少しでも利益をあげるため、作付けの工夫も検討して行きたい。

3　これからの課題

失敗した事柄	・　電気柵を設置する際、村住民に広くＰＲして研修会形式で行う予定であったが、構造検討に時間がかかったことから研修会形式で出来なかった。
これからの課題	・　電機柵の春期の再設置の手間がどの程度かの検証が必要。 ・　各集落へサル調査結果報告とともに、当集落の取組みをＰＲする。

４　問合せ先

大北地区野生鳥獣被害対策チーム：北安曇地方事務所林務課　電話 0261-23-6519
〃　　　　　農政課　　　0261-23-6510

→詳細

【協同圃場造成】

造成前……現地検討の状況

造成中……村の重機と住民の共同作業

造成後

【電機柵設置】☆

測量して資材の数量を把握し…

下部（イノシシ対策用）を組立て……

裾を固定し……

上部（サル、ハクビシン用電柵）を設置

積雪期前には、上部の電線を外し……

下部は現地に伏せる

【緩衝帯整備】

実施前	実施後

【ニホンザルの行動調査】

ニホンザル２頭への電波発信機の装着	サル巡視員、専門家を交えた検討会